

達、天保七年定番御馬廻御番頭、十五年組外番頭を經、十三年九月隱居して栖霞と號し、料二十人扶持を受けた。

ヤマヤチ 山谷内 鹿島郡小牧の内の小字。ヤマワキイチロベエ 山脇市郎兵衛 初代

玄悦の嫡子。祿二百石を受け、大小將となつて御右筆を勤めて居たが、不調法の事があつて、元祿十年六月十五日嫡子小市左衛門・次子悦三郎と共に御預となり、同月廿五日能登に配流、寶永五年正月九日免された。

ヤマワキゲンエツ 山脇玄悦 父は玄佐。寛文四年前田綱紀に仕へて醫師となり、祿後に増して三百石に至つた。貞享三年歿。

ヤマワキゲンエツ 山脇玄悦 諱は敬美。一名は侃。字は伯玉。通稱玄悦。順永の長子で、藩醫として祿三百石を受けた。玄悦鳩巢の門に學び、諸名家に交り、白石詩集にもその詩に和したものが少くない。享保二年歿。次代正壽を経て、貞順に至り斷絶した。

ヤマワキジュンエイ 山脇順永 通稱仙庵。正悦・順永、諱は永、字は節夫、號は竹塲。玄悦(初代)の次子。藩醫として三百石を受け、正徳五年四月十九日歿した。その抄録に竹塲雜記十卷があり、又好んで詩を賦し、竹塲詩集一卷があつた。

ヤマワキミチマサ 山脇通政 通稱三木。父は庄太夫。寶曆八年新番に列し、安永五年罪を得て一類御預となり、次いで越中五ヶ山に流された。

ヤマワケゴロモ 山分衣 一册。山崎弘泰著。天保十年飛騨の大白川を測つて、平瀬から白山の御前岳に登り、鶉鳥を捕へたことが書かれてゐる。弘泰は通稱十郎兵衛。飛騨高

山の地役人で、國學を田中大秀に學び、文久元年正月二日歿したのである。

ヤママジンエモン 山井甚右衛門 大聖寺藩士。正智流の槍術を皆傳した。前田利精に仕へて御用人となり、屢直諫を捧げ、又重職の臣に對し面折大言するを憚らなかつた。

ヤマカヨシヤス 山岡綏安 金澤の人。通稱彌四郎、一諱綏忠。本多利明の門下で、會田安明の算法古今通覽及び家崎藩之の五明算法の解釋を著した。

ヤマヲジロク 山尾次六 金澤の白銀師。次侶久とも書き、侶久と號し、安政三年四十二歳を以て歿。子喜太郎は春理と號し、技を能くしたが、慶應二年十八歳で歿し、叔父二代次六侶延家を襲ぎ、明治十年歿。その子は次吉光延で、大正十二年六十二歳で歿した。

ヤムキ 矢向 鳳至郡大野(西大野)の内の小字。ヤヤコドリ ややく編 多聞院日記天正十年五月十八日の條に、『於若宮拜屋、加賀國八歳・十一歳の童や、子をどりと云法樂在之候。加賀踊とも云。一段いたむけに面白云々。』とある。

ヤユフグレ 八夕暮 一册。小松の俳人乃露編。鳥一居人序。正徳五年京橋屋治兵衛を迎へて七さみだれを刊行したに對し、橋南の人々はそのに對抗する意味で、支考再度の來遊を機とし、百韻に入つた夕暮を置いてこの集を編したものである。

ヤヨスガシゴゼン 冶容子河岸御前 前田綱紀の女敬姫は、鳥取侯池田吉泰に嫁して、冶容子河岸御前と呼ばれた。又因幡御前とも

いふ。

ヤリカハ 鱒川 鳳至郡本郷に屬する部落。

ヤリブギョウ 槍奉行 御槍奉行は御長柄小者を引率する奉行である。浪華役に吉田數馬守政・齋藤市左衛門長次が御槍奉行であつた。前田綱紀の初、山崎半左衛門長政・山崎小右衛門長有兩人之に命ぜられ、次いで寛文二年長政死し、六年長有隱居して中絶したが、天和三年二月には北川庄右衛門某・有賀甚六郎政寛が命ぜられた。此の時その列を御小將頭の次とし、役料二百石、輿力二騎・足輕六人・小頭一人・小者四十人(四人は自分仕小者)御預と定められた。元祿三年九月廿九日兩人共に定番頭に轉役し、即日小泉勘十郎重永・加藤十左衛門重久之に代り、四年重永、正徳三年重久各死亡した。以後又中絶したが、安永四年九月廿八日有澤才右衛門貞幹之に任じた。此の時は輿力・足輕等の御預がなく、昔の當役とは格式が變じた。其の後天明二年石野主馬助寛氏、五年今井勘兵衛矩明が命ぜられたが、その轉役後廢役となつた。

ヤリミツヤマ 遣水山 能美郡佛大寺にある。能美名蹟誌に、この村の遣水山といふ所に、十一面觀音を泰澄の作佛と云うて小堂に安置する。この山は今も女人の參詣すること禁ずるとある。

ヤリヤク羅斯ケ 鎗屋九郎助 金澤石浦町東側小路の角家であつた。九郎助は藩祖前田利家の時以來、鎗の御用を勤めた舊家であり、子孫は九郎次と稱し、狂言師を兼ねたが、廢藩の際に及んで世業を廢した。

ヤワ 夜話 ↓ヨロコビグサ 悅草。ヤワグルヒ 夜話狂 一册。小松の俳人宇

中編。元祿癸未霜月日寂保齋宇中序。京井簡屋庄兵衛・同字兵衛板。支考が一昨年北國に行脚した際、小松に帶杖しなかつたを恨み、更に請うてこの書を編したのである。故にその体裁全く支考の東西夜話に倣うて小松の部を設け、別に北國及び彦根の諸士の句を集めたものである。

ヤヤヤキヘエ 八尾屋喜兵衛 金澤上堤町の書林で、鶴林堂とも北齋坊とも號した。その著北陸驛路筆は天保十二年に上梓せられてゐる。

ユ

ユアサカン 湯淺寛 字は君栗。通稱丈次郎。號は木堂。其の先湯淺中齋は備前の人で、文明中小松に移つたと傳へる。七代彦兵衛家を中齋屋と號し、桴軸の製造を業とした。寛はそれから八代の孫である。幼にして學を好み、長じて訓詁に精しかつたが、文雅はその志す所でなかつた。寛、小松の集義堂に教授すること多年、天保の初藩が學政維新を命じた時、老臣本多・奥村二氏文學の士を其の邸に招いて試みたが、寛も亦之に與つた。天保十三年九月十日歿。年五十三。

ユアサキミヨシ 湯淺公義 通稱吉太夫。才次。初め藩の御算用者に任じ、明和中に小頭となつて新知八十石を受け、後更に二十石を加へ、天明二年正月十一日には三十石を増され、組外に班したが、六年二月十八日自害して仕損じた。